

回鶻文の佛典に就て

私は本日、此處に掲げました所の回鶻文の佛典に就てと云ふ題で御話を申上げる次第でございますが、斯う云ふ題を取つたことに就きましては、豫め御斷りをして置かなければならぬことがございます、此回鶻文の佛典と申しますやうなものは、從來餘り世間には紹介されて居ませなんだもので、御承知の通り十數年以來歐羅巴諸國の學者、或は日本の有志家、即ち大谷伯爵などからして、度々學術上の探檢隊をば出されまして、其地方に埋没して居る史料をば種々發掘致しました物の一つでございます、今日陳列の場所に二三其標本を列べて置きましたのでございませが、（標本を示す）此處に持つて参りましたのはこんな物でございます、豫てからは等の史料に付きまして少しく研究を試みて居りましたので、實は明日の總會の席上で、極簡単にホンの十分か二十分、是に付て私の存じて居る次第をば御話を申上げる積りで居つたのでありますが、會の方にも色々御都合があつたと見えまして、遂に同じ題目で公開の席上で御話を申上げることになりましたので、甚だ一般の諸君には縁の遠い、且つ窮屈な題で御話を申上げなければならぬことになつたのでございます、特にこんな題を取りましたのは、さう云ふ次第であると云ふことを御承知置を願ひまして、暫く御清聽を煩したいと存じます。

それで直ぐに此佛典の事に付て申上ぐべきであります、唯今も申しますやうに、回鶻と申します民族が餘り一